

公共空間の在り方は 建築家や照明デザイナー解説



公共空間の在り方について考えたイベント

八戸

八戸市の「はっち」で22日、「建築家と照明デザイナーのダイアログ」と題したイベントが開かれた。同施設の設計を手がけた建築家の針生承一氏、世界的照明デザイナーの面出薫氏が登壇し、それぞれのこれまでの活動を振り返りながら、公共空間の在り方について参加者と共に考えた。

市内に事業所を持つ企業「トイ」が設立した一般社団法人「TOCOL」の裏側について、建築家と行政それぞれの立場か

（「トイ」の主催）

業界の第一線で活躍を続ける両氏の言葉を通して、公共空間について考えるとともに、参加する中高生の職業選択の幅を広げる機会にしてほしいと企画した。

ら語った。
当初は観光交流施設として山車の通年展示などができる施設も検討されていたが、針生氏は実際に八戸の街を見て回り「いろんな人が集まったりいろんな物を作ったり売ったり、いろんな交流ができた、市民が主に楽しめる居場所づくりをしたい」と、現在の形の施設を提案。現状について「いつも高校生がいっぱいいいて、勉強したり交流したりしているのが素晴らしい。（中心街の）交通量も増えたと聞き、非常にありがたい」と話した。

第2部では、面出氏が自身の活動を振り返りながら、照明デザイナーの仕事について解説した。面出氏は「建築照明デザインとは、自然光をどうするかということ」と、デザインの原点が自然光にあると強調。最新技術を駆使しながら、自然光の美しさを取り入れた照明デザインについて実例を交えて紹介した。

（向屋敷萌）